

北陸新幹線（金沢・敦賀間）開業に伴う
特別急行料金上限設定認可申請について

（運輸審議会ご説明資料）

令和5年11月9日
鉄 道 局

目 次

	(頁)
1 北陸新幹線金沢開業時 運輸審議会答申における要望事項への対応について	1

1. 国土交通大臣は、北陸新幹線の長野駅～金沢駅間の区間の開業に伴い、東日本旅客鉄道株式会社及び西日本旅客鉄道株式会社が共同で当該新幹線を運営することとなることに鑑み、両社に対し、必要に応じて次の助言・指導を行っていただきたい。

【国の対応】

認可時（2014.12.17）に、認可書の交付とともにJR東日本、JR西日本両社に対して運輸審議会要望事項を伝達。

（1）日本有数の豪雪地帯を高速で走行するという環境を踏まえ、日常の安全対策はもとより、地震・事故等の緊急時の対応においても、両社が緊密に連携して安全かつ円滑な輸送を確保するための体制を整備すること。

【事業者の対応】

冬季期間において、車両に付着した雪などが高速走行運転中に落下した場合、車両機器や設備の損傷につながる恐れがある。そのため、JR西日本管内から走行してきた上り列車を上越妙高駅で確認し、着雪が多い場合には雪落とし作業を実施し、落雪による事故防止等に努めている。

地震などの大規模な輸送障害が発生した場合に、列車の運休や点検作業などで両社間にて迅速な情報共有や手配を行う必要がある。そのため、新幹線総合指令所の各系統において毎年定期的に両社での合同訓練を実施し、運行管理境界を跨ぐ手配などに備えている。また、輸送障害時には両社の対策本部をWeb（専用のビデオ会議システム）でつなぎ、情報共有や運転手配を行うなど、緊密に連携強化を図っているほか、取扱いに齟齬が発生しないよう、平時より両者で密に情報連携している。

（2）首都圏と北陸地域との間の鉄道利用者が大幅に増加する見込みであることを踏まえ、各種割引や宿泊切符など、両社の共同企画商品の設定に努め、利用者の利便性・快適性を一層向上させること。

北陸エリアを回遊いただくため、Web商品として、きっぷを受取ることなく、事前に登録した交通系ICカード・モバイルSuicaなどを自動改札機にタッチするだけで、そのまま北陸新幹線にご乗車いただける新幹線eチケットサービスを提供し、「えきねっと」と「e5489」の双方で割引商品（首都圏⇄北陸エリア）を設定している。

また、インバウンド向け商品として、北陸新幹線金沢開業後の2016年4月に「Hokuriku Arch Pass」を設定しているほか、同商品も活用し、関係自治体と共に海外の旅行会社へのプロモーションを実施している。

また、国内利用者向けにも、北陸デスティネーションキャンペーン（2015年10月～；2024年10月～も実施予定）や毎年行っているJapanese Beauty Hokuriku キャンペーン等、

大規模キャンペーンを実施し、このようなキャンペーンに合わせた旅行商品を造成するとともに、「かに」を題材にした商品を設定するなど首都圏、北陸に新たな流動を生み出す観光開発に努めている。

2. 国土交通大臣は、北陸新幹線の長野駅～金沢駅間の区間の開業に伴い、他の路線における利用者の利便性に影響が発生する可能性があることに鑑み、両社に対し、必要に応じて次の助言・指導を行っていただきたい。

【国の対応】

認可時（2014.12.17）に、認可書の交付とともにJR東日本、JR西日本両社に対して運輸審議会要望事項を伝達。

（1）大阪駅～富山駅間の区間など一部の路線において新幹線と在来線の乗換えが必要となることを踏まえ、乗換改札の整備、乗継割引料金の設定など、乗継利便性や料金面について配慮すること。

【事業者の対応】

金沢で在来線特急から新幹線に乗り継ぐ場合は在来線の特急料金を半額にする乗継割引を設定した。

在来線との乗換改札口を金沢、富山駅に設置、金沢駅では乗換のお客様用のみどりの窓口を設置した。加えて乗換のお客様の誘導や安全確保のため警備員を配置、ご利用のお客様の流動を考慮し列車出発時刻表を増設するなどして円滑な乗り換えを図っている。

案内においては乗換改札の整備に関連して、外国語自動放送装置（※）を導入、係員にタブレットを配布し多言語の対応を行うと共に、耳のご不自由なお客様の筆談対応が円滑に行えるアプリ等も導入しお客様へのご案内を充実させている。

ダイヤ面においては在来線特急と継走を目的とした「つるぎ」を設定し関西圏と富山との結びつきを維持するための取組みを実施している。

※ PCで入力した英語文章を駅構内で自動音声にて放送する装置。

（2）東京駅～大宮駅間の区間で東北新幹線と、東京駅～高崎駅間の区間で上越新幹線と線路を共用することを踏まえ、各路線の利用実態に即して、利用者の利便性に最大限配慮されたダイヤ編成とすること。

東京～大宮間では各方面の新幹線と競合することから、ご利用状況を踏まえて、偏りが出ないようにダイヤを設定している。

2018年3月改正では、お客さまのご利用状況を鑑み、定期列車として「あさま」（東京～長野間）1往復を増発するほか、新型コロナウイルスの影響に伴って、2022年3月改正時に「かがやき」2往復を臨時列車としていたものを、2023年3月改正より定期列車として毎日運転するなど、利用者が多く見込まれる日には臨時列車を設定し、利便性を確保している。